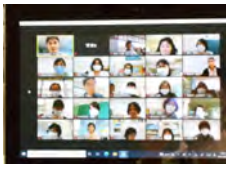
# 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です

## ～子どもの読書活動を推進しましょう～

## 第１回　学校司書研修会

６月 18 日金曜日、第１回学校司書研修会が、Zoom で開催されました。Zoom での研修は初めてのことで、今後の研修会の形を考える上で大変参考になる研修会となりました。



研修会の内容としては、小学校教育課より始めの言葉があり、中学校教育課より本年度の学校図書館教育について、「学校司書と本市事業のつながりについて」「学校図書館支援センターについて」「学校司書配置について」「年間計画について」「福岡市児童生徒の実態について」の５点の説明がありました。

次に、学校図書館支援センターより、学習支援用図書の、新しく購入したセットや、どのようなセットの貸し出しが多いのかを紹介しました。また、図書館の環境掲示物作りとして、支援センターから事前に送っていた材料で、グリム童話の「ヘンゼルとグレーテル」のお菓子の家作りを行いました。短時間でしたが、皆さん楽しみながらかわいいミニミニお菓子の家作りをすることができました。

最後に、各区に分かれての情報交換を行いました。蔵書数についてや、寄贈本の処理についてなどの質問に加え、次回の研修では、タブレット研修を行ってほしい、おすすめの本を持ち寄り交流がしたい、本の修理の仕方を知りたいなどの意見がでました。

短時間でしたが、有意義な研修を行うことができました。

# Hello!　学校図書館　東箱崎小学校

今月紹介させていただく東区の東箱崎小学校は、１４学級３３８名の学校です。コロナ禍の中でしたが、校長先生に笑顔で出迎えていただき、学校の様子を話していただきました。

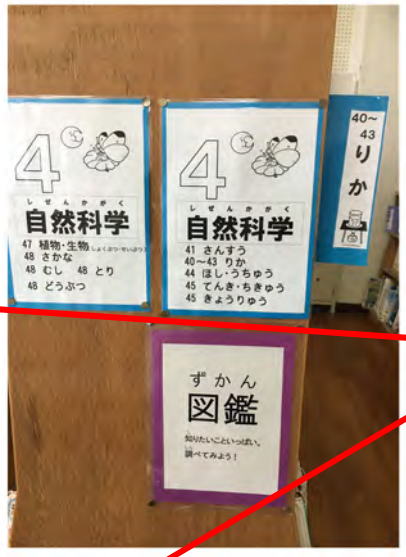
また、図書館は環境整備がすっきりとされていて、明るい印象を受けました。子どもたちが笑顔で読書している様子が目に浮かぶようでした。

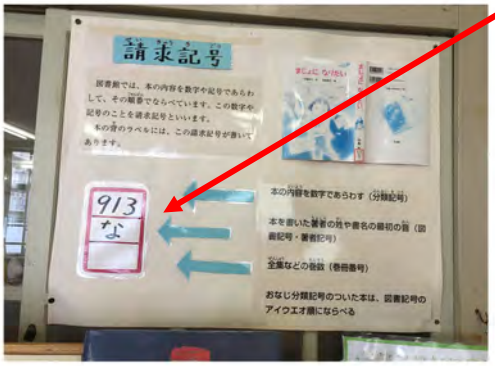
## ○安全面を配慮した工夫

コロナ対策が利用する子どもたちにもよくわかる工夫がされています。

## ○図書館の決まりや本の配架がわかる工夫

色模造紙の上に掲示したり、色分けしたりと、掲示物が見やすいようにうまく色が使ってあります。色使いがやさしいですね。

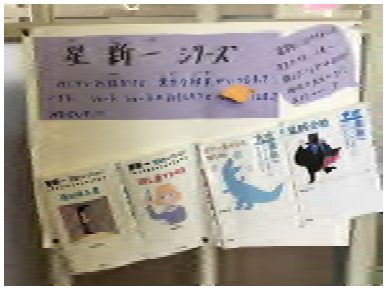


本の分類について学習し、自分の読みたい本を自分で見つけられるように色分けしてあります。

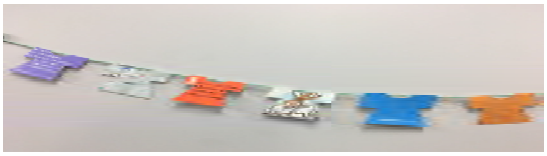
**コーナー設置**で、国語で学習したことを、さらに深められることでしょう。**面だし等の展示**の仕方も大切で

## ○「学習センター」としての工夫



# 本の帯を使った７月の掲示・展示

暑い夏は、揺れるような掲示物を作ることで、図書館を涼しく感じることでしょう。
また、夏休み中に図書館の環境整備も行っておくと良いでしょう。
夏休み明け、本の返却に来た子どもたちが「わあっ！」とワクワク感をもち、次の本を早く借りたいと思うような明るい雰囲気にしたいですね。



# ８月生まれの文学者

## 藤 真知子（ふじ まちこ）と「まじょっ子」シリーズ

東京都文京区　１９５０年８月３０日生まれ

藤氏は小さいころ病気がちで，読書好きでした。大人になり、カルチャーセンターで童話の書き方を学んだ時に書いた小学校低学年向け童話をポプラ社に応募し，入選するとすぐに書籍化が決まり，１９８５年に『まじょ子どんな子ふしぎな子』で作家デビューをしました。

「まじょっ子」シリーズは，まじょっ子と出会った人間が様々な体験をするファンタジーで，合計２６０万部を売り上げ，英語や韓国語にも翻訳されています。

藤氏は，物語の世界だとなんだってできる。無限の可能性を持つ子供たちに夢や希望を持たせたいと思い，物語を書いているそうです

作品は，「わたしのママは魔女」シリーズや「まじょのナニーさん」シリーズなどあり，作家デビュー後，数多くの児童文学を執筆しています。

## 村上康成（むらかみやすなり）と「ピンク，ぺっこん」

岐阜県群上市　１９５５年８月１１日生まれ

「絵本も描けるウクレレ釣り師」と異名を持つ絵本作家の村上氏は，小・中学を瑞浪という陶器の町で育ちました。

絵本作家になることを決めたのは，近くの本屋で原画展があり，その原画がもとに絵本になった谷内こうた氏の「のらいぬ」を見て，体が震えるような感動を味わい，「こんなすばらしい表現世界はない！」と思ったからでした。

「ピンク，ぺっこん」に登場する「ヤマメのピンク」は，絵本を描いて出版社に持ち込み全然だめだったとき，編集者から「そんなにヤマメが好きなら、それで絵本を描けばいいんじゃない。」と言われたことで誕生しました。

村上氏は，絵本を読み終わったときに感動が残るような絵本をつくりたいと思っています。そのためにこだわっている一つが「間」です。絵本には，一筆も描かないページや文字の一切ないページなどをつくっています。

【あとがき】

今年もコロナ禍の中、夏休みになりました。子どもたちは夏休み図書館の本をいつもより多く借りて帰っていることと思います。それぞれの家庭でゆっくりと読書を楽しんでほしいものです。また、近くの図書館にも足を運んでほしいと思います。学校図書館とはちがった本選びの楽しさを味わうことができるのではないでしょうか。先生方も日頃なかなか時間が取れないと思いますが、ぜひ読書に親しむ時間を作ってみてください。　（足立）

今月はめずらしい視点から生きものの秘密に迫った本をご紹介します。

『食べて始まる食卓のホネ探検　ゲッチョ先生のホネコレクション』
盛口 満／文・絵　少年写真新聞社　2014 年　¥1800（税別）
＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年★☆☆　小中学年★★★　小高学年★★★　中学生★★☆
高校★☆☆　一般★☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞
ホネについての研究や観察といったら、博物館に展示してあるようなものを思いつくかもしれません。けれどもこの本で取り上げるのは、私たちが普段食べている肉や魚といったよく知られた生きもののホネ。身近すぎるとあなどるなかれ、魚の目玉のホネの大きさで生息する海の深さがわかったり、鳥の丸焼きから先祖が恐竜であったという証拠をみつけたりと、生きものの秘密がぐんぐん解き明かされていきます。
著者は大学の教授でもあるゲッチョ先生こと盛口満氏。繊細な挿絵も本人が描いています。

＜子どもに手渡す時のポイント＞
魚の胸びれの部分にある小さな魚の形のホネを探したり（タイのタイ）や、フライドチキンのホネから鶏のどこの部分を食べたのかを推理したり、家庭で簡単にできるテーマが載っています。 興味を持った子には試してみるよう案内してください。生きものの命をいただいているという実感がわくことでしょう。身の回りのものからも様々な発見ができるという視点は、自由研究にも役立つと思います。
『生きものとつながる石ころ探検　ゲッチョ先生の石ころコレクション』（2018年¥1800）や『集めてわかるぬけがらのなぞ　ゲッチョ先生のぬけがらコレクション』（2020年¥1800）など、他にもシリーズがあります。あわせて紹介し、気に入ったテーマを選んでもらうのもお勧めです。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発　行：福岡市教育委員会
総合図書館 図書サービス課
電　話：０９２－ ８５２－ ０６３９
ＦＡＸ：０９２－ ８５２－ ０８０１